

## マイナス三歳からの教育

時実 “三つ児の魂百まで”と言いますが、三歳ごろまでに、回路の約七〇パーセントができてしまいます。ですから、三歳までの環境は大変大切です。私は、ゼロ歳どころか、「マイナス一歳、マイナス三歳の教育が大事だ」と思っています。最近、子供は社会が見るべきだという勇ましい女性もいますが、私は、子供は親が自分の手をかけて世話することが大変重要なことだ、と思いますね。そういう点から言っても、親の心構えが大切です。自分に、子供を育てる資格があるかどうかをよく考えて、自分の子供は自分で面倒をみていく、という姿勢が必要ですね。ですから、私は、「マイナス一歳、マイナス三歳のころの、親としての教育が大事だ」と言うのです。

## 言葉がわかるなら漢字もわかる

柳平 つまり、子供の生まれる前から、親が親としての心構えを作っておくということが大切だ、ということですね。ところで、私たちが、今、広めようとしている“石井方式・漢字の教え方”でも、石井先生は、「ゼロ歳でも漢字が読める」と言われています。ハードウェアがすでに備わっているのですから、そこに漢字を与えれば、ゼロ歳の赤ん坊でもこれを受け入れ判別することができる、と言ってよろしいでしょう。

時実 私は、漢字を読むことは、言葉を話すことと同じだ、と考えています。ですから、言葉がわかるなら、漢字がわかっても当然です。ただ、赤ん坊は、普通、言葉に接するようには漢字に接しませんから、言葉を覚えて話せるようになりますが、漢字を覚えて読むようにはならないのです。子供の部屋中を漢字でいっぱいになれば、自然に覚えていくでしょう。ただ、親は面倒だから、なかなかそうはしないでしょうがね……。最近の子供はよくしゃべるでしょう。あれは、文字に触れるチャンスが少ないから、言葉の方ばかり発達するんです。